

# 第 21 回日本皮膚外科学会 総会・学術集会

## プログラム・抄録集

会 期 : 平成 18 年 8 月 26 日 (土)、27 日 (日)

名誉会頭 : 伊藤雅章 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 皮膚科学分野教授)

会 頭 : 竹之内辰也 (新潟県立がんセンター新潟病院 皮膚科部長)

会 場 : 新潟市民プラザ  
〒 951-8061 新潟市西堀通 6 番町 866 番地 NEXT21 ビル 6 階  
TEL 025-226-5500 FAX 025-226-5503

事務局 : 新潟県立がんセンター新潟病院皮膚科内  
〒 951-8566 新潟市川岸町 2 丁目 15 番地 3  
TEL 025-266-5111 FAX 025-233-3849  
E-mail hifugeka21@niigata-cc.jp

実行委員 : 須山孝雪 高塚純子 三井田 博 田中英一郎  
土屋和夫 高橋明仁

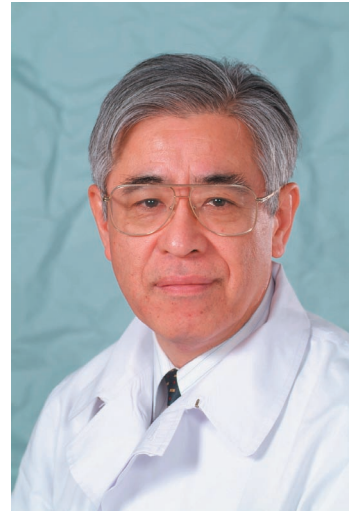
# 特別講演

## 特別講演

### 「口腔悪性腫瘍切除後再建の現状」

#### 又賀 泉 先生

日本歯科大学新潟生命歯学部口腔外科学第2講座 教授



口腔は UICC 国際対癌連合における口腔癌の扱いによると、解剖学的には舌前方 2/3、口底、上下歯肉、硬口蓋それに頬粘膜であると規定されている。一方、口唇は皮膚癌に属するが、内側は頬粘膜である。さらに興味あることに口唇赤唇の粘膜は皮膚と粘膜の接合部であるという解剖学的特徴があり組織学的にも違いがみられる。このように皮膚と粘膜は身体表面を被う上皮性組織でありながら構造や機能に大きな違いがある。とくに口腔粘膜は体腔の内面を被い、摂取する食物や水分などの外的刺激に加え、唾液の存在、口腔常在菌や口腔カンジダ菌によっても影響を受ける。

今回私の講演では、口腔癌切除後の再建方法についてその現状を解説する予定である。拡大全摘後に用いられる再建材料の多くは皮膚、皮弁、骨皮弁などの皮膚組織を用いたもので、再建は三次元的に複雑である。口腔は顎骨によって囲まれているという解剖学的特徴から、根治的切除時にはしばしば顎骨の切除が必要となり、一次的あるいは二次的に再建が必要である。近年再建された顎骨に歯科インプラントを埋入、これを固定源とした義歯を作製して機能を改善する方法が行われている。再建された皮弁にこの歯科インプラントが貫通することがあり、インプラント体周囲皮膚に過形成が生じることがある。

以上口腔癌切除後の再建の現状について解説し、併せて再建後の皮弁の口腔内における経年的変化についても紹介する。

## 学 歴

- 昭和 50 年 日本歯科大学歯学部卒業（歯学士）  
昭和 59 年 博士（歯学，日本歯科大学）の学位授与（乙第 456 号）

## 職 歴

- 昭和 50 年 日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学教室第 2 講座 助手  
昭和 54 年 日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学教室第 2 講座 講師  
昭和 60 年 日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学教室第 2 講座 助教授  
昭和 60 年 アメリカ合衆国、ミシガン大学歯学部口腔外科、  
～昭和 61 年 医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科 客員助教授  
平成 7 年 日本歯科大学新潟歯学部口腔外科学教室第 2 講座 教授  
～現在に至る

## 学会役職

- 平成 6 年 新潟ハイパーサーミア研究会世話人  
平成 8 年 新潟癌治療研究会世話人  
平成 8 年 日本口腔科学会評議員  
平成 8 年 日本口腔科学会・日本口腔外科学北日本地方会役員  
平成 9 年 日本頭頸部腫瘍学会評議員  
平成 10 年 日本歯科医学教育学会評議員  
平成 12 年 国際口腔インプラント会議 日本部会 評議員  
平成 12 年 日本口腔インプラント学会関東甲信越支部評議員  
平成 13 年 日本口腔粘膜学会 理事  
平成 15 年 日本口腔腫瘍学会学術委員会委員  
平成 15 年 日本有病者歯科医療学会理事  
平成 17 年 日本口腔顎顔面外傷学会 理事  
平成 16 年 日本顎顔面補綴学会評議員  
平成 17 年 日本顎顔面インプラント学会理事  
平成 17 年 International Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, editor